

高齢者が望む快適な住環境の構築に関する研究

1070530 日浦 隆太 By Ryuta Hiura

指導教員：草柳俊二教授

高知工科大学 工学部 社会システム工学科 建設マネジメント研究

現在、我が国では急速な高齢化社会が進行している。身体的衰えや病気等で介護を必要となった高齢者の多くは、介護施設等に入り人生を終えることとなる。我が国では、高齢者が可能な限り自立生活を送り、快適に且つ有意義に過ごせる環境が構築されていない。高知県では中山間地域に居住する高齢者が多く、そのほとんどが過疎化の進行のなかで不様な安を抱えながら自立生活を送っている状態にある。本研究では、高齢者の生活状況や意識を調査し、生きがいのある老後を過ごせるシステムの構築を目指した。

Key Words : *aging society, nursing care insurance, self help, intermediate and mountainous area*

1. 背景

(1) 高齢化社会

図-1 は我が国の「将来人口の推移」を表している。近年我が国では急速な高齢化が進んでいる。2006年9月現在の高齢者人口は2640万人、高齢化率は20.7%であり、5人に1人強を高齢者が占めている。高齢化率は20%を超え、超高齢化社会となっている。また、2050年には高齢者人口3586万人、高齢化率は35.7%となり今後高齢者人口は増加し続けると予測されている。この高齢化が進行する要因として考えられることは、「平均寿命が延びた、食生活が良くなった、医療技術の進歩、出生率の低下」などが考えられる。

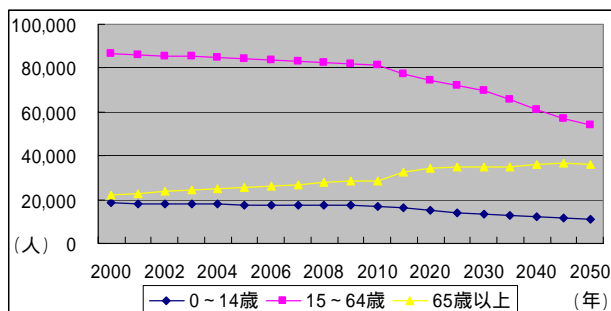


図1 将来人口の推移

(2) 高齢化に伴う社会環境の変化

高齢者は、歳を重ねていくごとに身体的衰えや病気などで介護が必要となる。高齢者の心情としては、自立した生活を続けたいが「周囲に迷惑をかけたくない」などの思いがあり、止むを得ず介護施設等に入ることを選択するといったケースが多く見られる。特に、中山間地域で生活を送っている高齢者は様々な不安を抱えながら必至に自立生活を続けている状態がうかがえる。我が国では、急速な高齢化が進行しているにもかかわらず、高齢者が老後を快適に過ごせる環境が十分に構築されてい

ない。その一方、介護コストは急増しており大きな社会問題となっている。

2. 研究の目的

高橋賢多氏の「世代間交流による地域の活性化に関する研究（高知工科大学2005年度学部卒業論文）」では、高齢者は若者との交流を望んでいるということが明らかにされている。高齢者が、若者との交流を積極的に行いながら、可能な限り自立生活を続けることが出来るシステムを創造することは、急増する介護コストを抑制するといった意味でも必要であると考えられる。本研究の目的は香美市・香南市を対象とし、「山間部に在住する高齢者が、可能な限り自立生活を続けることが出来るシステムの構築」である。

3. 高齢者の現状・意識調査

老後を快適に過ごせる住環境を創造に向けて、中山間地域の高齢者の意識・現状を調査し把握するために、以下のアンケートを実施した。対象が高齢者であること、高齢者の意見、生活実態をより正確に知るためアンケートの方法は住居を訪問し直接インタビュー方式とした。

- ・調査目的：高齢者の住環境と意識調査の把握
- ・内容：主に中山間地域の高齢者の日常生活に対する意識・現状・ニーズ
- ・対象者：香美市・香南市在住の65歳以上の男女
配布枚数107枚（回収率100%）
- ・調査時期：2006年12月8～21日

図2は「世帯属性」を表している。アンケート結果から高齢者の意識・現状・ニーズを分析した。家族構成別に見ると全

体の31%が一人暮らしと最も高い割合を示している。また、一人暮らしをしている人の年齢層を見ると圧倒的に70~80代の高齢者が多い。70~80代の高齢者の一人暮らしは、緊急時の際助けしてくれる人がいないため孤独死等を引き起こす可能性が考えられる。

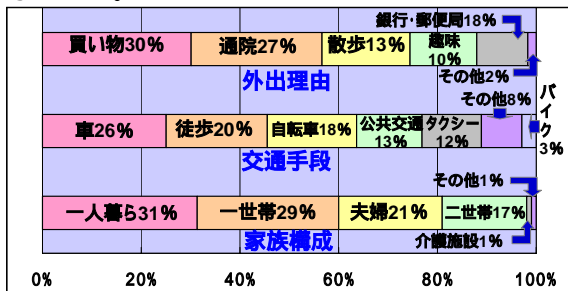


図2 世帯属性

図3は「したいことの有無」、図4は「具体的にしたいこと」に対するアンケート結果である。今後何かしたいことがありますか、の問に「はい」と答えた人は全体の71%、したいことの58%が趣味、30%が生きがいという結果になった。

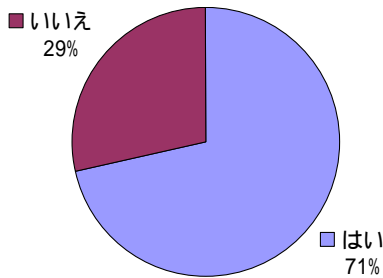


図3 したいことの有無

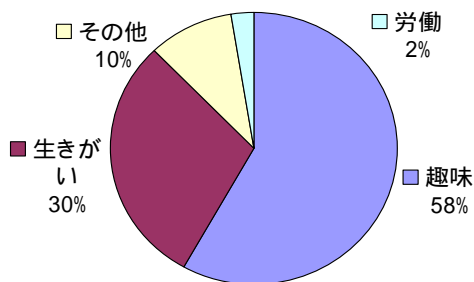


図4 具体的にしたいこと

図5は「自立生活を送りたいかの有無」を表している。「はい」と答えた人は、全体の87%という結果になった。したがって、年齢に関係なく自分の力で生活をしていきたいと考えていることが把握できた。

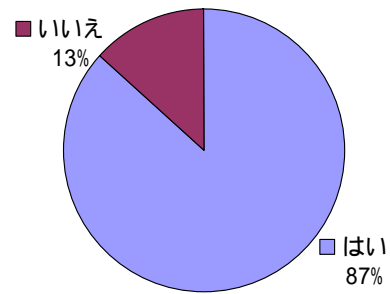


図5 自立生活を送りたいかの有無

図6は「将来への不安」を表している。66%が「身体・健康的な問題」、17%が「金銭的な問題」という結果になった。この結果から、主に体の衰えや病気、金銭面に不安を抱えていることが把握できた。

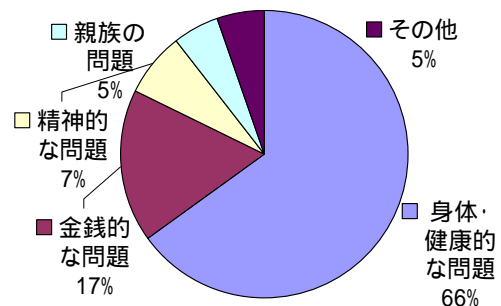


図6 将来への不安

これからの生涯をどうしていきたいか、の問に対する回答は様々あったが、全体をまとめると「元気で健康に暮らす」、「趣味や交流を続けたい」、「周囲に迷惑をかけないように自立した生活を送る」、「今まで通りの暮らし」、「長生きしたい」などの意見があった。

4. システムの構築

(1) コンセプト

アンケート結果から得られた、出来る限り自立生活を続ける、趣味や生きがい、楽しく若者と交流が出来る、等を考え高齢者が元気に、快適に生活を続けられるシステムを考える。具体的方策として図7に示すように、山間地域で生活している高齢者が望む時に街に出てきて滞在できる施設を用意することとした。施設は「生活できる個室」をコンセプトとする。プロジェクトマネジメントのプロセスによって、これらのコンセプトを組み込んだ複合型施設を建設する方法論を見出す。

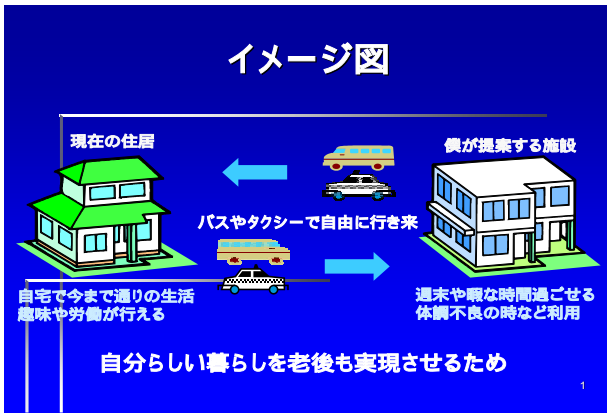


図7 コンセプトイメージ

(2) プロジェクト資金に関する分析

現在介護保険給付費は日本全体で、4,625 億円/月となっており、香美市で見ると 1.79 億円 もの多額の金額が支払われており、今後も高齢化の進行とともに増加していく傾向にあると考えねばならない。

図7 は香美市での介護保険給付を受けている 65 歳以上の人口の分布を示したものである。その総数は 0000 人であり、65 歳から 95 歳の給付人口は 00% となっている。もし、65 歳から 95 歳の介護保険を必要とする人達が健康を維持し、介護保険受給を 5 年遅らせたとした場合、給付人口のグラフは 5 年平行移動となる（赤色線）。しかしながら、日本の平均寿命は世界最長であり、これ以上延長する可能性は低い。よって、95 歳以上の介護保険受給者数は変わらないものとし、予測したグラフが黄色線である。これを基に介護保険給付費を算出すると、減少する分が約 1000 万円/月、逆に増加する分が約 500 万円/月、両方を差し引くと約 500 万円/月の削減になり、年間に換算すると、約 6000 万円の削減になる。

つまり、高齢者が生きがいを感じ健康で過ごすことが出来れば、介護予防に繋がり、介護保険料の削減が可能になることになる。この介護保険給付費の削減をプロジェクト資金として充当することを考えた。

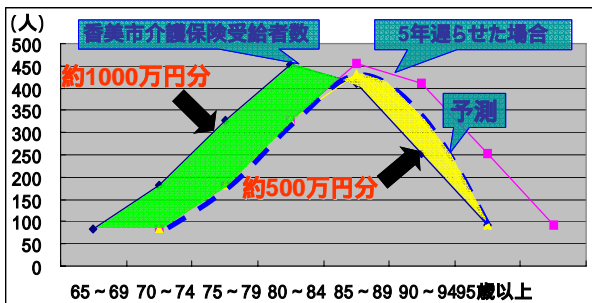


図8 香美市介護保険給受給者数

(3) 建設施設の概要

アンケートの結果とこれまでの分析を基に以下のような施設内容を定めることにする。

建築規模

・建築面積：627.36 m² ・延べ床面積：1858.08 m²

構造規模：鉄筋コンクリート造 地上3階

宿泊室

・高齢者が自由に宿泊できるように一人暮らし、夫婦二人暮らしの場合を考慮して、8畳と10畳タイプの部屋を16部屋ずつ配置した。また、各部屋に緊急時のために通信用設備を用意した。

共有施設

- ・カフェ：屋外にも出られるようにテラスを設置しゆったり広々とした休憩スペースとして利用できる。
- ・トレーニングジム：アンケート結果から日常的トレーニングを行ないたいという意見が85%得られた。
- ・多目的ホール：日替わりで習い事やイベントを行なう。新たな趣味や生きがいの発見ができて楽しく過ごせるスペースを用意した。

大浴場：トレーニングジムが設置されていることから利用した人が汗を流せる。

遊ぶスペース：若者と高齢者が共通の遊びであるビリヤードや将棋などを設置した。

(4) 施設建設予定地の選定

施設建設予定地は、高知県の所有地である香美市土佐山田町楠目にした。この土地は高知工科大学の学生寮建設計画があり、学生寮と本研究の計画施設が共存することによって、若者と高齢者の間に交流を生み出すことができると考えた。さらに、土地にかかる費用は無料となり、施設建設費用のみとなる。また、周辺には病院やスーパーがあること、中山間地域からのアクセスも利便性が良いことからこの地域が建設予定地として適していると判断した。



図9 建設予定地



図10 施設平面図



図11 個室タイプ別平面図

(5) 施設の運営

高齢者活動時間、生活状況を考慮した上で、営業時間、利客人数、利用料金を以下のように設定する。

- ・営業時間：9：00～18：00の9時間
- ・利用可能人数：1日の最大利用客数は170人と設定
- ・利用料金：宿泊室一泊タイプ1：550円、タイプ2：650円。施設利用料金1日：400円

(6) 施設建設費用積算

- ・延べ床面積：1858.08㎡
- ・1㎡当たりの建設費用単価：160,000円
(延べ床面積：1858.08㎡)×(1㎡当たりの建設費用：16万円) + 昇降機：(5,000,000円) = (施設建設費用：302,292,800円)

- ・年間管理費 = (光熱費：8,073,000円) + (昇降保守費：600,000円) + (人件費：16,200,000円) = 24,873,000円
- ・年間収入 = (宿泊室分：4,882,800円) + (施設利用分：20,032,000円) = 24,914,800円

		項目	金額(万円)
工事	建築工事費	30,229	
	昇降機設置費用	500	
総合建設工事費		30,729	
管理(年間)	光熱費	807	
	昇降機保守費	60	
	人件費	1,620	
年間管理費(年間)		2,487	
収入(年間)		2,491	
純利益(年間)		4	

図12 建設費・維持管理費

5. 結論

本研究では、高齢者が老後を快適に過ごせる住環境の構築というテーマに沿って進めてきた。実際、この施設が建設されることで、若者との交流も図れる。そして、高齢者にとって心の寄り所の一つとなり生きがいや趣味を楽しめる環境になる。また、介護保険給付費の削減も可能になると考える。今後の課題として、中山間地域の方が自宅と施設を自由に行き来できるような交通システムの構築を考える。

筆者は普段の日常生活では、高齢者と触れ合う機会があまりなかった。高齢者の方々はアンケートを皆さん快く受け入れてくれ、積極的にお話をしてくれた。また、筆者が話をすることで喜んで頂けたように感じる。表面上ではわからない事が実際に話をすることで、高齢者が抱えている生活に対する問題や不安を理解することができたより深く理解できた。この経験は自分自身にとって大変貴重なものになった。

今後就職先でも、お客様と接する機会が多々あると思われる。そういった仕事の中で、相手の気持ちを正確に受け入れる事を常に心掛ける、その気持ちに答えられる人間として成長していきたいと思う。

参考文献

1. 介護保険と医療制度を考える部屋
<http://www.urban.ne.jp/home/haruki3/>
2. 国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』
<http://www.ipss.go.jp/>
3. 高橋賢多氏の「世代間交流による地域の活性化に関する研究：建設マネジメント研究室2005年度卒業論文」
4. 厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/>